【別添1】

令和4年度「子供と家族・若者応援団表彰」受賞者

	【子供・若者育成支援部門】	【子育て・家族支援部門】
内閣総理大臣表彰	**特定非営利活動法人エンパワメントかながわ** （有識者（子供・若者育成支援推進のための有識者会議構成員　パナソニック ホールディングス株式会社CSR・企業市民活動担当室　室長　福田里香）推薦） …1頁 **西尾市教育委員会**（愛知県推薦）　…1頁 **合計2件**	**能勢町家庭教育支援チーム「ほっこり」**（大阪府推薦）　…5頁 **合計1件**
内閣府特命担当大臣表彰	**ONLY　ONE　♡**（福井県推薦）　…2頁 **特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと**（京都市推薦） …2頁 **公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会**（札幌市推薦）　…3頁 **信州大学統合技術院（工学部技術部）**（長野県推薦）　…3頁 **Children`s Views & Voices** （有識者（子供・若者育成支援推進のための有識者会議構成員　関西大学人間健康学部教授　山縣文治）推薦） …4頁 **よりみちステーション**（佐賀県推薦）　…4頁 **合計6件**	**認定NPO法人いわて子育てネット**（岩手県推薦）　…6頁 **合計1件**

令和4年度「子供と家族・若者応援団表彰【子供・若者育成支援部門】」受賞者概要

内閣総理大臣表彰（2件）

1 特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ （神奈川県横浜市）

こどもたちの周囲にあるあらゆる暴力を無くしていくために、一人一人が大切であるという人権を伝える活動をしています。こどもたちに、暴力を受けずに生きる権利があることを伝え、もし暴力が向かってきた時に、出来ることを考えるプログラムを対象に合わせて開発し、提供してきました。また、こどもの周囲にいる保護者や教職員にも、こどもの話を聴きこどもを暴力から守るためのワークショップを提供しています。これまでに提供したワークショップは、9,000回を超え、33万人が受講しました。デートDVを防止することで、DVや虐待の連鎖を断ち切ることができると考え、予防啓発と相談支援の両輪を築いてきました。デートDV予防プログラムを開発・提供すると同時に、SNSを活用した広報啓発も推進しています。また、デートDVに特化した相談窓口を開設し、全国からの相談を受け付ける他、デートDVの被害生徒や加害生徒への個別回復プログラムを行うデートDV専門相談員の養成にもあたっています。

「就学前CAP」の様子
※CAP　Child Assault Prevention（こどもへの暴力防止）

「高校生とのデートDV予防ワークショップ」の様子

団体HPのトップページ画像

2 西尾市教育委員会 （愛知県西尾市）

西尾市は日本語教育が必要な児童生徒数が全国最多である愛知県の中央南部に位置し、人口の約6%、約1万人が外国人市民です。西尾市教育委員会では、10年以上にわたり、外国にルーツを持つこども・若者とその家族に対する多様で先進的な教育支援活動に取り組んでいます。

活動の端緒は、平成20年のリーマン・ショックによる外国人家庭の生活困窮等の深刻化を機に、就学前児童が小学校生活を円滑に送るための初期指導教室（プレスクール）を開始したことでした。また、平成21年に官民連携で開設しました多文化ルームKIBOU（きぼう）では、就学前児童も含めた外国人児童生徒の不就学不就園調査を毎年実施し、そこで把握した児童生徒の就学・学習支援を展開しています。さらに、日本語初期指導教室カラフル（プレクラス）を小学校に開設し、来日直後の児童生徒に最長3か月間、基礎的な日本語や生活習慣を指導しています。

西尾市教育委員会では、有識者の助言を受けながら、学校・カラフル・KIBOUの連携を中心とした多文化共生教育体制を構築し、日本語教育が必要な児童生徒約700人が在籍する市内の小・中学校に多言語の日本語教育指導支援員を巡回させ、外国人家庭対象の就学及び進路説明会を開催し、ICTを活用した情報提供や学習支援を展開するなど、外国にルーツを持つこども・若者の日本社会における社会的自立のための多角的な教育支援活動に積極的に取り組んでいます。

「就学前児童に対する初期指導教室（プレスクール）」の様子

「外国人家庭のための就学説明会」の様子

令和4年度「子供と家族・若者応援団表彰【子供・若者育成支援部門】」受賞者概要

内閣府特命担当大臣表彰（6件）

1 ONLY ONE ♡（オンリー ワン ラブ）（福井県坂井市）

坂井市内において中学生を対象とした乳児とのふれあい活動「赤ちゃん抱っこ体験学習」を主催している団体です。「赤ちゃん抱っこ体験学習」は多感な中学生が乳児を抱っこしたり、ミルクをあげたりなど実際にお世話をしたり、出産育児の実体験を聞くことで命の尊さや親への感謝などを感じてもらうことを目的としています。事業に協力してもらう赤ちゃんの親は乳児検診時や子育て支援センターで直接声掛けをして募集しています。実施者側のボランティア及び体験者側の生徒が毎年入れ代わっており、地域を巻き込み、事業を次世代に繋げています。これまでの運営ボランティア及び参加親子は500人を超えており、また、ボランティア活動を通して、育児中の親同士の情報交換や交流を広げることで、子育ての孤独や不安解消にも寄与し、親世代と中学生との地域における世代間交流の場としても貴重な役割を果たしています。平成27年より活動を開始し、初年度は丸岡中学校、丸岡南中学校で実施しました。以降も、実施校を増やしながら活動を続け、30、31年度は坂井市内全中学校（5校）で実施し活動を拡大してきました。新型コロナウイルスが感染拡大した令和2年度は中止となりましたが、活動を継続するべく内容を工夫し、3年度以降は非接触型のオンライン交流という形で実施しています。

「赤ちゃん抱っこ体験学習」の様子

「ボランティア説明会」の様子

「オンライン交流（親子側）」の様子

2 特定非営利活動法人 キンダーフィルムフェスト・きょうと（京都府京都市）

京都でこれまで28回にわたり、京都国際子ども映画祭を開催してきました。本映画祭は、こどもたちに「映画という文化の面白さと奥深さ」「メディア・リテラシー」「自主性、創造性の尊重」「多様性の認識」「協調性とコミュニケーション能力」を学んでもらうことを目標としており、こどもが日常生活では出会わないものや人に出会い、交流する場を提供しています。こどもが観ることのない作品に出会い、ゲスト監督の話を直接聞き、映画の楽しみを知ってもらい、また、多種多様な映画に触れることで、映像を読み解く力を身につけてもらうことを見据え、日々活動しています。さらに、学校や学年の壁を越えてこどもスタッフや子ども審査員として自らの考えで行動し、創り上げていく過程を経験し、様々な考えがあることを実感することで自主性と創造性を育むことを狙いとしています。そして、こどもが協力しあって活動することで、コミュニケーション能力の向上を図り、これからの映画文化を支える人材を育成することに尽力しています。また、近年は映画祭事業のほかにも映画関連のワークショップ（脚本、お芝居、映画撮影・編集）にも力を注いでおり、活動に参加するこどもの数は年々増加し、令和4年度は30名のこどもスタッフが映画祭の準備に取り組んでいます。

「第25回映画祭」の様子

「子ども審査員」の様子

「映画祭ポスター」の様子

3 公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会（北海道札幌市）

平成22年度から指定管理者として、若者の社会的自立を総合的に支援する若者支援施設を運営している団体です。令和2年6月に、こどもや若者が息抜きをしたい時に立ち寄る「親戚の家」のような居場所「いとこんち」を開設しました。ここには、経済的な問題や家庭内の問題があり、すぐに危険な状態に陥るわけではないものの、慢性的に困難を抱えている10代から20代のこどもや若者が訪れ、専門のスタッフが、親戚のおじさん・おばさんのように、ご飯を作ったり、一緒に遊んだり、勉強を手伝ったりする、家や学校以外にこどもたちが安心して過ごせる親戚の家のような居場所となっています。「いとこんち」は、こどもを親から離すのではなく、一時的にこどもを預かることで家庭を支援する日帰り里親のような場所であり、ここでは、家庭が担っていた役割を周囲が手分けすることで、地域全体で家庭やこどもを支えることに繋がっています。

スタッフと一緒に料理

「いただきます」

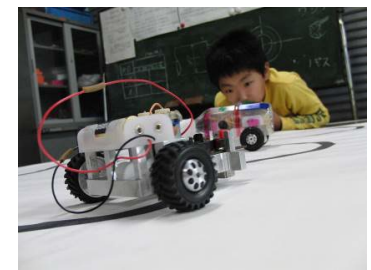
「いとこんち」での団らん

4 信州大学統合技術院（工学部技術部）（長野県長野市）

地域貢献活動のひとつとして、平成21年度から長野市内の小・中学校に呼びかけ、親子体験教室を開催してきました。毎年複数のテーマを用意し、それぞれの専門の技術者が、作り方、実験の仕方、観察方法について分かりやすく説明しています。

今までに、①紙飛行機をつくって飛ばそう、②ミクロの世界～電子顕微鏡で観察しよう～、③水の流れの速さを測ろう/水力発電機をつくる、④金属ってけずれるの？、⑤ライントレーサーをつくってみよう、⑥)七宝焼でアクセサリーをつくろう、⑦ホイッスルとブックマーカーをつくろう、⑧結晶をつくろう等のテーマで開催してきました。

工学部キャンパスには多くの実験装置や設備、人材があります。これらのリソースは地域と大学をつなぐ役割となります。こうした体験の中から、こどもたちが単なるおもしろ実験で終わるのでは無く、「なぜ？」という興味や、「もっと知りたい！」という向上心が芽生える事を願って活動しています。これまでの活動でのべ500組以上の親子が参加しています。



活動の様子

体験教室のポスター

5 Children`s Views & Voices（大阪府大阪市）

チルドレンズ　ビューズ アンド ボイシーズ

児童養護施設や里親家庭等、社会的養護の経験者（以下「当事者」という）をエンパワメントするために、当事者と支援者がともに活動している団体です。当事者の「視点」や「声」を大切にしています。活動歴は20年を超えており、当事者が主体となって、自助グループとしての活動や当事者の声を発信する活動を、早い時期に始めた団体のひとつです。現在、柱となっている活動として以下の二つがあります。「みんなの会」は、社会的養護のもとで生活している中高校生を対象とした交流会です。スポーツなどのレクリエーションや将来を考えるワークショップ等を通して交流し、退所後にもつながりを持てる関係性を築くことや、自立に向けての知識及び経験を得ることを目的としています。「よりみち堂」は、社会的養護のもとを離れた若者を対象とした夕食会です。食事をともにする居場所をつくることで、当事者の孤立を防ぎ、何かあれば相談もできる、ひらかれたゆるやかな場となることをめざしています。これらの取組を軸として、当事者自身が当事者の声を集め、社会に発信し、インケアからアフターケアまでをゆるやかに繋ぎながら、自らも安心して楽しく過ごせる場づくりを続けています。

「学習会」の様子

「みんなの会」
でのレクレーションの様子

6 よりみちステーション（佐賀県武雄市）

孤立しがちなこどもや若者が、安心して暮らせる地域づくりを目的に、こどもを中心とした誰でも来られる居場所づくりをしている団体です。「ぼちぼちや」（自治公民館）、「てくてく」（中学校、現在はコロナ禍のため休止中）、「くむくむ」（民家）の3件の活動拠点があり、平日の午後は毎日開けています。こどもが主体的に自己選択・自己決定できるように、「何をしてもいいし、何もしなくてもよい」場としています。大人が提供するプログラムはなく、こどもは自分が過ごしたいように過ごしているため、ボランティアの大人はこどもを尊重して黙って見守っています。令和4年度で10周年を迎えますが絶えずこどもたちが遊びに立ち寄っており、さらにこどもたちが居場所の存在を口コミで広げています。また、保護者同士も送迎時に互いに話をしたり、スタッフに相談をしたりする等、出会いと交流、子育ての仲間づくりの場、地域のよりどころとなっています。

「ぼちぼちや」の様子

「てくてく」の様子

「くむくむ」の様子

令和4年度「子供と家族・若者応援団表彰【子育て・家族支援部門】」受賞者概要

内閣総理大臣表彰（1件）

1	**能勢町家庭教育支援チーム「ほっこり」** （大阪府豊能郡能勢町）

核家族化及び地域のつながりの希薄化等による家庭教育力の低下や、子育て家庭の孤立が懸念されることから、身近な地域において子育て経験者による支援チームを結成し、子育てに関する情報や学習機会の提供、相談体制の充実をはじめとするきめ細やかな支援活動を行っています。家庭教育支援チームは、年3回、年長(5歳)児及び1～6年生のこどもがいる全家庭を訪問し、子育て情報を掲載した「子育て情報誌『ほっこり』」を家庭に届けるとともに、家庭訪問を通じて家庭と「つながり」を作り、子育て家庭の孤立を防止している。また、家庭との「つながり」の中で相談を受けた場合は、家庭の頑張りを共に支え、地域とのつながりづくりや専門機関への橋渡しをしています。

家庭教育支援チームの会議

家庭教育支援メンバー

家庭訪問の様子

内閣府特命担当大臣表彰（1件）

1	認定NPO法人いわて子育てネット （岩手県盛岡市）

平成16年に設立以来、岩手県域において子育て環境向上を目的に、子育てに関する多様な事業を行ってきました。
主な活動として、「子育てサポートセンター」等施設の運営により、キッズスペース等交流の場の提供、相談対応、スキルアップ支援、情報発信を行っています。その他、こどもの預かり、子育てサポーター養成、自然遊び、子育てインターンシップ、祖父母や地域も子育てに関わりやすくする講座などを行っています。また、東日本大震災津波発生時には、団体のノウハウとネットワークを活用した臨機応変な対応により、被災した新生児と母親及びその家族を緊急的に受入れ、産後ケアと生活支援を行ったほか、遊ぶ機会が激減した被災地のこどもたちのために、運動遊び、アート遊び等遊び場を提供しました。
新型コロナウイルス発生以降においては、感染拡大防止のため利用者数が減少しましたが、コロナ禍における利用者の不安や悩みに配慮するとともに、家の中でできる親子遊びなどの情報、子育てセミナー、県内に点在し孤立する外国人親子(英語圏)のためのリモート子育て広場等SNSで発信しています。

「子育て支援指導者向け研修会」の様子

「自然遊び」の様子

「『沐浴体験』講座」の様子

【別添2】

令和4年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞者

内閣総理大臣表彰	レスタ（青森県推薦）	…1頁
	合計1件	

内閣府特命担当大臣表彰	岩手わかすフェス実行委員会（岩手県推薦）	…２頁
	愛媛県立南宇和高等学校地域振興研究部（愛媛県推薦）	…2頁
	独立行政法人国立高等専門学校機構佐世保工業高等専門学校学生サイバーボランティア（長崎県推薦）	…3頁
	信州大学地域参画プロジェクトCHANGE（長野県推薦）	…3頁
	学校法人中野学園オイスカ浜松国際高等学校環境SDGsプロジェクト（静岡県推薦）	…4頁
	合計5件	

令和4年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞者概要

内閣総理大臣表彰（1件）

1	**レスタ** （青森県青森市）

「さぁ、一緒に始めよう！」の精神で、異年齢交流をはじめ様々な活動に取り組む「大人の手によらない学生団体」です。レスタの活動の中心は、かつての「空地」の機能を現代にマッチするように再構築することにあり、活動の企画、運営はすべてメンバーである高校生、大学生により行われています。平成27年から実施している「寺子屋」は、小・中学生を対象に自主活動の場や高校生、大学生との交流機会の提供を通し、学力の向上とともに異年齢交流による互いの成長を図る活動となっています。また、クッキングや野外活動などの様々な異年齢交流の活動を行っているほか、結成当初から10年にわたって毎年開催している「レスタ・ワールドカフェ」は、例年100名を超える参加者があり、地域社会における様々な課題について語り合う場を創出するとともに、高校生、大学生と社会人が交流する橋渡しとなる役割を継続して担っています。

「寺子屋」の様子
（令和4年）

「異年齢交流
（クッキング）」の様子
（令和3年）

「レスタ・ワールドカフェ」
の様子
（平成27年）

内閣府特命担当大臣表彰（5件）

1 岩手わかすフェス実行委員会

東日本大震災津波の復興支援により生まれた絆や繋がりを保ち育てるため、東京にいながら、岩手のヒト・モノ・コトに個々のスタイルで関われるイベントを開催することを目的に、東京にいる岩手出身者・岩手ファンの有志が平成28年に結成した団体です。

「岩手わかすフェス」として、平成28年～令和元年度には都内で交流イベントを行い、岩手県の市町村や岩手県で活動する企業・人がブースを出展し毎年500名～800名以上の来場がありました。令和2年度～令和3年度は新型コロナウィルス感染症の影響により、オンラインの開催となりましたが、三陸沿岸のバーチャルツアーなど複数の企画を行い、2日間で約1000人が視聴しました。「わかす」という言葉には、南部鉄器でお湯を沸かすイメージになぞらえて、「岩手×東京の関係性を、東京から盛り上げる」という目的が込められており、イベントを通じて、東京にいる岩手出身者・岩手ファンが、「岩手との関わり方のカタチ」を見つける交流の機会を提供するとともに、岩手県33市町村との関係人口創出にも貢献しています。

活動は、大学生や社会人を中心とした有志が自主的に行っており、クラウドファンディングによる資金調達のほか、自ら創意工夫を凝らして企画や運営を行っています。「岩手わかすフェス」の他にも、岩手のアンテナショップや地元企業と協働で実施した生配信「わかすのわ！」を実施するなど、今後も、岩手と東京を繋ぐ情報発信や関係人口の創出が期待されます。

「岩手わかすフェス」
市町村ブースの様子

「岩手わかすフェス」
学生プレゼン大会の様子

2 愛媛県立南宇和高等学校地域振興研究部（愛媛県南宇和郡愛南町）

愛媛県愛南町が生産量日本一である愛南ゴールドを栽培・加工・販売と県内・県外はもちろんのこと世界へ届けようと町の先頭に立ってPRしています。

平成27・28年度、令和4年度は、東京でのPR、平成29～31年度、令和4年度に沖縄県でのPR、平成30年4月に柑橘類では、全国の高校で初めて、グローバルGAP認証を河内晩柑・甘夏で取得し、令和3年7月に東京オリンピック選手村の食材として提供されました。

コンテストにも挑戦し、高知県安芸市で開催されている全国高校生「商い甲子園」2連覇、内閣官房事務局主催のGAP食材を使ったおもてなしコンテスト事務局長賞、農林水産省主催の地域未来につながる農業推進コンクール（GAPの部）中四国農政局長賞、ローカルSDGs四国主催のローカルSDGs四国大賞、徳島県主催のエシカル甲子園2021特別賞を受賞しています。

「GAP認証取得」
の様子

「実習販売」
の様子

「商い甲子園」
の様子

3 独立行政法人国立高等専門学校機構 佐世保工業高等専門学校 学生サイバーボランティア（長崎県佐世保市）

県内各地の小・中学校等においてサイバーセキュリティ講話を開催しています。

平成29年度から長崎県警察が取組んでいる「サイバーセキュリティボランティア事業」に参加しており、長崎県警察から委嘱を受け、当該団体の専門性を活かしつつ学生たちの創意工夫により、県内各地の小・中学校等においてサイバーセキュリティ講話を開催して県民のインターネット利用に係るリテラシーの向上に貢献しています。

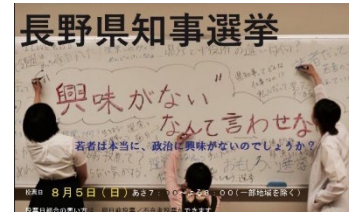
将来的なセキュリティ人材の育成にも貢献し、県内外から高い評価を受けています。また、「全国高専フォーラム」などにおいて情報発信をし、全国の多くの高等専門学校において同様の取組が行われることになり、この取組は県内のみならず、全国にも波及しています。

佐世保工業高等専門学校生によるサイバーセキュリティ講話の様子

4 信州大学地域参画プロジェクトCHANGE（チェンジ）（長野県松本市）

「大学生が地域課題に関心を持つ機会を創出し、身の周りにある地域社会が抱える課題について考え、魅力ある地域づくりを実践すること」を目的とし、主に信州大学の学生を中心に地域活動へ関心を高め、参画を促すために、各種調査やイベント企画など多岐にわたる活動を松本市を中心に実施しています。

活動例として、大学生の関心が高い受動喫煙問題、バスの遅延問題について意識調査を実施し、その結果を大学生の視点で取りまとめ、市に届け出て、学生の抱える課題への施策への反映に働きかけるきっかけとなりました。さらに、行政と学生との意見交換を重ねることで地域の現状の理解を深めています。そこで得た知見を活かして、大学生が地域課題を自分事として捉えられるよう、生活上の不便さ・気づきから地域課題を考える座談会を定期的に開催することで、自らが暮らすまちに興味を持つ機会を創出しています。このほか、選挙への大学生の関心が低いことに注目し、主に地方選挙に関して独自に大学生目線の質問を取り込んだインタビューを立候補予定者に実施し、その結果をHPで公開しています。また、市民団体による活動に積極的に参画するとともに、その様子をSNS等に投稿することで若者問わず幅広い世代に地域と市民活動の魅力を発信し、その参画を呼びかける活動もしています。



「作成した選挙ポスター」の様子

「YouTube チャンネル」

5	学校法人中野学園　オイスカ浜松国際 高等学校　環境SDGsプロジェクト （静岡県浜松市）

学校の所在地である浜松市という市の名称に着目した「浜と松プロジェクト」として、災害に強く美しい海岸を目指す環境保全活動に取組んでいます。平成13年度に自発的なボランティア活動として始まった本活動は、SDGs教育を推進する生徒全体の活動となり、現在は有志生徒による「環境SDGsプロジェクト」として、様々な活動を企画・運営し、「浜と松プロジェクト」も行政や企業、市民団体、周辺学校などと協働する地域貢献活動へと発展しました。また、「浜」は、中田島砂丘の保全活動、「松」は浜松市木である松の保全活動を表し、観光産業（景観）の活性化や防災、環境保全、憩いの提供、貧困の解消など活動テーマの幅を広げ、堆砂垣の設置や飛砂状況の調査、防潮堤への植栽、海岸清掃、カワラハンミョウ等の生態観察、松葉の堆肥を活用した野菜作りなど、多分野にわたり活動しています。

なお、この「環境SDGsプロジェクト」の推進を通じて、環境問題の解決にむけた実践力のある生徒、多文化共生社会へ貢献できる生徒、将来の地域社会の担い手となる生徒の育成にも寄与しています。

防潮堤植栽

松葉堆肥から野菜作り

ごみひろい選手権

【別添3】

令和4年度「子供と家族・若者応援団活動事例紹介事業（チャイルド・ユースサポート章）」受章者

【子供・若者育成支援部門】

特定非営利活動法人ジェルメ・まるしぇ（北海道推薦）	…1頁
中央警察署少年補導員連絡会（福岡県推薦）	…1頁
フリースクールほっとハウス（京都市推薦）	…2頁
都タクシー株式会社（京都市推薦）	…2頁
特定非営利活動法人夢輪（神奈川県推薦）	…3頁
合計5件	

令和４年度「チャイルド・ユースサポート章【子供・若者育成支援部門】」
受章者概要（５件）

1 特定非営利活動法人ジェルメ・まるしぇ（北海道石狩市）

石狩市において、市内や周辺地域に暮らす不登校・ひきこもりのこどもや若者、その家族を対象に「相談活動」と「居場所活動」を中心とした支援活動を行っている団体です。平成26年度から石狩市の委託を受け、「相談室まるしぇ」、「Cafe　まるくる」という“家”を拠点として、不登校やひきこもりに関する相談、当事者の成長自立の支援、関係機関と連携した包括的な支援体制づくり、ひきこもり等に関する普及啓発などの広範な業務を総合的・一元的に行っています。様々な“困り感”を抱えている当事者や家族と、『ともに考え、行動し、寄り添いながら』をモットーに、当事者等の状態や目標に対応したメニューを用意して進められるサポートがジェルメ・まるしぇの特徴です。相談をはじめとした地道な支援により、約4割の方が自立に至っています。行政と緊密に連携し、「ひきこもり」などについての住民理解を深める活動にも取り組むジェルメ・まるしぇは、困難を有するこども・若者や家族を支援するモデル的な取組となっています。

「相談室まるしぇ」と「Cafe まるくる」の外観

「ひきこもりセミナー」の様子

「就労の準備段階として支援する『しごと練習喫茶 まるくる』」の様子

2 中央警察署少年補導員連絡会（福岡県福岡市）

困難を抱えた少年たちの立ち直り支援や健全育成活動を行っている団体です。昭和４９年の設立以降、街頭補導活動や見守り活動を通じ、地域住民の安全・安心の確保に努め、本団体の前会長が発足したNPO法人、福岡県警察、福岡市教育委員会、大学生のボランティアとも協力し、非行や不登校などの問題を抱えた少年や保護者との面接のほか、体験型等の立ち直り支援活動にも力を入れてきました。具体的には、夏休み期間中の学習支援、クリスマスケーキ作り・そば打ち体験・甘夏狩り・バーベキューなど、少年の居場所づくりを行っています。更には、児童を対象に、社会のルールをモチーフとしたカルタで遊びながら規範意識を学ぶ「健やかカルタ」を使用したカルタ大会を行い、児童の道徳心を育てる取組や、管内所在の高等学校（７校）と協働し、駅利用者に対して乗車マナー向上を呼び掛けるキャンペーンを行うなど、少年の規範意識向上に向けた取組にも力を入れています。

「街頭補導活動」の様子

「学習支援」の様子

「健やかカルタ大会」の様子

3 フリースクールほっとハウス（京都府京都市）

設立以来、一貫して不登校のこどもたちの居場所として活動している。活動内容は、全くプログラムの無い、こどもたちが自分たちの好きな事をして過ごせる「のんびり日」と呼ばれる不登校のこどもたちの「居場所事業」。夕方からの学習を希望する生徒を対象とした「学習支援事業」。土曜日に野球をしたいこどもたちへ野球の出来る場所を提供する「野球応援事業」。また、家から出るのが厳しいこどもに対しては、ほっとハウスのスタッフが自宅まで訪問する「家庭訪問事業」、これら4つを柱としています。

特に事業の中心である居場所事業では、こどもたちのありのままを受け止める事、主体性的に生きる力を付ける事を当初から目指しています。開設時から大切にして来た目標と、これまで出会った多くのこどもたちが教えてくれた事が積み重なり、現在のほっとハウスの実践があります。いまだ増加する不登校のこどもたちにとって、仲間や信頼できる大人との出会いの場となり、学びの場であり続ける事、また今後とも、そうした実践を積み重ねていくこととしたい。

「居場所事業（みんなでごはん）」の様子

「ほっとハウスカフェ」の様子

「家庭訪問事業」の様子

4 都タクシー株式会社（京都府京都市）

タクシーサービスの１つとして、「子育てタクシー」を提供しています。妊娠中の方から15歳までのこども向けのサービスとして運用しており、親子での乗車はもとより、こども１人での乗車が可能です。こども向けサービスということもあり、全国子育てタクシー協会が実施する養成講座課程を修了した選任の運転手が対応しています。また、こどもの年齢に合わせて専用のチャイルドシートも装備しています。運転手もこどもが好きなことに加え、喜怒哀楽の表情に合わせた正しいコミュニケーション（接し方）を学んでおり、こども１人でも安心して利用することができます。加えて、本社の敷地内に保育所「きっずハウスみやこ」を運営しており、子育て世代の従業員の福利厚生として、仕事をしながらでもすぐにこどもの様子が見に行ける環境が整えられています。社員だけでなく、「きっずハウスみやこ」の近辺で就業、居住の方でも利用できるようになっております。

「子育てタクシー」の様子

5	特定非営利活動法人夢輪（ゆうりん） （神奈川県横浜市）

「たった一人の幸せのために」をコンセプトに「生涯学習」「文化交流」「子育て・親育て」の各種講座を実施している団体です。平成17年『夢輪』の『夢&遊教育事業』を開始しました。国語と算数を柱に自分なりの学習スタイルを構築。令和元年9月、『夢輪放課後等デイサービス』を『夢輪』活動の目的とする「相互福祉」の観点から開設。ハンデを持つ故、学校、家庭、地域で困っているこどもや親の「居場所」となっています。活動内容も『夢輪』で長年培った「生涯学習」(英語、読み聞かせ、音楽)、「自学自習」の「学習支援」を柱としています。遊びやイベントに取り組みながら人間関係を学ぶ「育ちの場」ともなっています。

プレイパークでみんなで作った大鍋の豚汁

高校生のお兄さんと一緒に鯉のぼり制作